

## 御坂芦川蛇沢千波ノ滝

日程：1月21日(金)夜行 - 22日(土)日帰り

21日 22:00 上坂宅 1:00 道の駅とよとみ 仮眠

22日 6:15(起床) 7:00(駐車場) 8:45(取付) 9:30(登攀開始) 13:45(終了点) 15:10(駐車場)

22日より：夜の冷え込みは強く、朝はかなりの寒さであった。目の前のコンビニで朝食を済ませ、出発した。

140号線から芦川駅方面に進み、線路を渡って行く。

10分少しぐらいだろうか周りを注意しながら走っていると、軽トラの荷台から写真を撮っている人がいた。

ピントきた!!千波の滝を撮っているに違いない。振り返ると氷瀑が見えた。デカイ...(図1)。直ぐに駐車スペースを探し、

Uターンして少し奥の4~5台ほど止められる場所に止めた(図2)。用意していると、トラックで車を横付けにしてくるおじさんが話しかけてきた。「あれ、登るのかい?」「楽しいのか?」など、こちらの地元の方は非常にアットホームである。後から出会うほとんどの人が必ず話しかけてくる。

対岸の舗装された道に進み、手すりのある小さな橋を渡りきったところから沢筋に入っていった。

取付きまで30~40分ほどだが、へつりや高巻が予想以上に悪い。

図3



苦戦しながらも、沢筋を詰めていくとあの巨大な氷瀑が見えてきた(図3)。

遠目から見ると氷も薄く、壁も立っていたが、登れる状態であるのが確認出来る。

登攀準備をして、上坂(奇数)・井上さん(偶数)としていざアタック開始。

1P目：優しいような左側より取付き、直上して左上する予定とした。直上までは問題ないが、左上する頃から違和感を覚える。なんか登りづらい。小さな氷柱がいくつも重なり愛用のバイルでは打ちづらいのだ。バイルを手にはぶら下げ、氷柱の頭や氷柱を掴みながら登っていく。冬季の岩壁登攀の感じだが、何しろ滑る。う~ん、ちまちま登ることとなる。その頃に、後続パーティーがやってきたようだ。井上さんと会話している。左上が終わり、少し上の辺りでピッチを切ろうとすると、残置シュリングを発見。アバラコフで残された物で、ありがたく使用させて頂いた。もちろんスクリュウ2本でも支点を追加する。井上さんが上がって来る前に後続パーティーのトップがすいすいと上がってきた。くねくねしたアックスだった。

図1



図2



Uターンして止めた右側の駐車スペース背の低いカーブミラーが目印

2 P目：優しいラインを選び、井上さんが確実に登っていく(図 4)。傾斜は 70 度あたり。30 m 辺り伸ばしたところでピッチを切るが、ロープがキンクしてきていた。そのままセカンドでいき、キンクは後で直した。

3 P目：直上ラインは氷が途切れており、次のピッチを考えるとショートになるが、右上気味に周り込み、平らなところで切る。

4 P目：井上さんが行ってみるといふことで、後続パーティーを見送ってから進む。ステップ上をたどるが(図 5)、その先はだいぶ立っている(80 度あたりか)。途中、レストを 1 回入れていた。ロープを目一杯伸ばして、ビレイ解除。セカンドで行くが、高度も出てきたせいか、自分の中ではこのピッチが一番緊張した。

ほとんど終了点だが、そのまま詰めを進み、安全なところまでロープを伸ばした。ちょうど登山道に向う登りの地点あたりだ。一服入れ、右上に見える踏み跡を追う。しばらく行くと明らかな道がありトラバース気味に右に進んで、更に下り始める。この頃からピンクテープが頼りとなった。途中、地元のおじいさんと会い、登山道よりこのまま真っ直ぐ降りれば道に出るという。親切心もあり、そのまま進むがちょっと悪かったかな。一般道でも地元の方と話しをする。やはり村につくづく愛されているのだと感じる。こういう思いも大切である。事故などを起こさない気遣いが大切だと感じた。

帰りは、近くの「みたまの湯」で癒された。なかなかいい温泉だった。

たまたま知人から情報を頂き、例年になく氷結具合で登攀することができた。トポによると一つの氷瀑としては国内でも最大級ではないかということ。パートナーと力を合わせて、登攀できたことが嬉しかった。

先行パーティーなどいる場合は、落水など特に注意した(高さがある分、危険度が高い)。

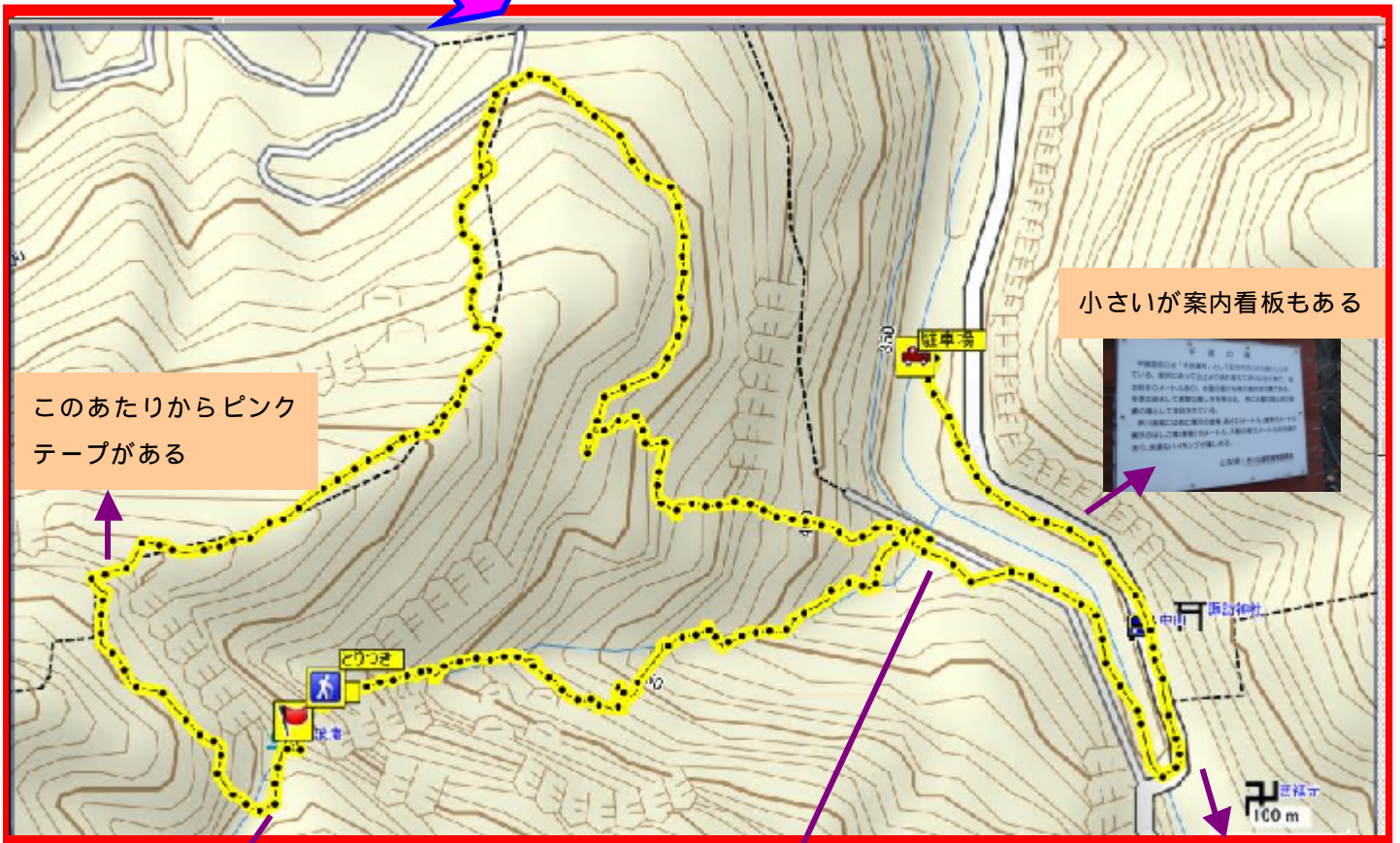
- ・ 氷結具合：一部薄い部分もあるが全体的にはよい
- ・ ピッチ数：5 ピッチ(実質 4 ピッチ)/ダブルロープ 50m x2
- ・ スクリュー 12 本(支点などでも使用する、最低 10 本は欲しいところ)
- ・ 気温/食糧：日陰だが寒さは厳しくない。おにぎり 2 個程度あれば充分。
- ・ アプローチ/下降：沢筋をへつったり、高巻いたり予想以上に悪かった。/仕事道みたいな登山道を安全に降りられる

図 4

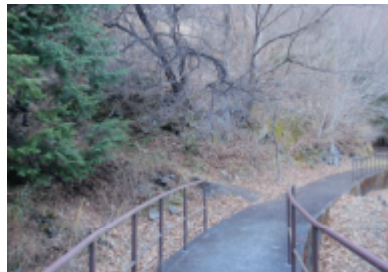


図 5





終了点から少し上上がったあたりから右側の踏み跡を詰めて行った



この先の左から沢筋に入っていく



この橋を渡って直ぐに右にある川沿いの細い道に入る